

One Purpose

講演	田淵 結【たぶち・むすび】
講師紹介	関西学院大学名誉教授 単立芦屋キリスト教会牧師

こんにちは。この3月末まで関西学院大学で教え、院長をしております田淵です。今は牧師として芦屋と神戸の教会のお手伝いをしています。

ところで今日は10月31日ですね。何の日か、といえばハロウィンです。今日私は関西学院千里国際高等部というところに行ってきましたが、生徒たちはまさにハロウィンスタイルで教室に来て、トリートのお菓子を分けてくれました。同志社の皆さんはあまりそのようなことしませんか。さてハロウィンって本当は一体何でしょうか。他に今日は、高校時代に世界史を勉強した人にはおなじみのマルチン・ルターという人が宗教改革のきっかけとなるドイツ、ヴィッテンベルグの城門にローマ教皇あての公開質問状を張り出し、彼の改革運動が始まった日、つまり宗教改革記念日でもあるのです。でもなぜ私がそのようなことが気になるか、という自分とキリスト教と関わり、そのような学校で教えてきたからですね。ぜひ皆さんも同志社におられるのですから、そのようなキリスト教の雑学めいたことも知っておいてください。と言っても、今日はそのお話をしに来たのではありません。

近代日本の教育

もう一つ質問をさせていただきますが、皆さんにとって学校とは「行かなければならない」ところなのか「行きたいから行く」ところなのか、どう思いますか。私はこの3月まで関西学院大学教育学部というところで教えていましたので、学校って何だろうということについて考えてしまうのです。また自分がイギリス、ロンドンに家族と一緒に2年間留学をした時の経験からすると、欧米社会の学校の考え方と日本とは大きく違うということも実感させられました。つまり日本社会において、学校は「行かなければならない」という理解が強いのですが、欧米では「行きたいから行く」ところ」と受け止められているようです。そこに明治期以後の日本における教育のあり方が、大きく影響しているようです。

つまり明治政府は早々に文部省というお役所を立ち上げます。それは大日本帝国憲法に明記されるように日本人はすべて天皇の臣民（家臣・家来）であり、日本の教育はよりよい臣民を育て、教育勅語で再確認されるように天皇を中心とする国家のために貢献させることが期待される国家的な事業とされたからですね。その考え方は現在もあまり変わっておらず、なぜ私立学校の授業料が高く、国公立が安いのかという議論にもつながります。つまり国公立の教育は「日本社会に有益な人材を育成する」ことが目的で、将来そこから優秀な官僚を求めることになりまから、その教育は国民の税金を用いることになるのです。ある調査によると現在の政府の国公立学校への補助は私学の12倍ということになっています。国公立の授業料が安いといわれるのは、そのほとんどの部分を税金つまり私たちが負担しているからですね。ですから国公立の学生諸君は卒業後には、私たちに世話になった分の恩返しをすべきだと思うのですが。

キリスト教の学校

それはともかく、日本の教育は国家主体、国民の義務として設定されます。ところが明治になって欧米からキリスト教の宣教師たちがやってきて、日本にキリスト教に基づく学校を作り始めます。明治学院、立教学院、そして皆さんの同志社もそうですね。すでによくご存知だと思いますが、同志社の創立者新島襄は、幕末に日本を抜け出しアメリカでキリスト教信仰を得、Congregational Church（当時は「組合教会」と呼ばれていました）の宣教師として帰国し、同志社という学校を創立します。その時の学校は当然、宣教師たちが理想とする教育を実践するためのものだから、日本政府の考え方ははずいぶん違います。宣教師的な（その背後にある欧米的な）発想からすれば、学校とは自分たちがこうなりたいという自分たちの理想を実現するためのところ。だからそうなりたいたいからそこに行く、言葉を変えれば「行きたいから行く場所」であったのです。ミッションスクールという言葉がありますが、キリスト教伝道（ミッション）を目的とする学校だということは、やはりキリスト教を信じることを通じて自分たちの理想が実現できる場所という思いがあったのでしょね。

そこでさらに皆さんに質問です。皆さんはなぜ同志社に入されたのでしょうか。三つの答えから選んでください。（1）偏差値、ランキングを基準に考えた。（2）キリスト教主義の学校だから。（3）同志社大学だから。さあどうでしょうか。

もし（1）だったら、別に同志社でなくても国公立の学校でもよかったのですね。（2）だったら関西学院大学でもよかったのではないのでしょうか。そして（3）だったら、同志社しかなかったということです。ではなぜ同志社しかということなのでしょう。そこがキリスト教学校だけではなく私立学校の教育の基本となるポイントなのです。実は私立学校はそれぞれに個性が独自性をもっています。開闢開立といわれるそれぞれの大学も、実はそれぞれ独自の教育理念—これを「建学の精神」とか「建学の理念」と呼んでいます—があるので、本当ならどの大学がどんな理念をもっているかということが、皆さんの進路決定の重要な理由となるはずですが、皆さんは大学進学にあたってそのようなことを考えられたのでしょうか。だから同志社だという選択は、そこにこの学校のもつ建学の理念・精神というものに皆さんが共感をもって集まっているということなのです。では同志社の理念とはどのようなものでしょうか。部外者の私には十分にお話ができないので、その手掛かりとして同志社大学のホームページ（建学の精神と新島襄より）に記されたものを引用しますと、「新島の夢は、『良心』と『自由』に満たされた学園と社会の実現です。彼は、日本が自由で民主的な近代国家になるためには、一人ひとりの個性と人格が十分に尊重されることが、大事だと考えました」「新島は、学問の探求とともにキリスト教を徳育の基本として人格を陶冶する教育機関をめざし、同志社においてキリスト教主義に基づき、自治自立の精神を涵養し、国際感覚豊かな人物を育成することを教育の理念としました」ということなのです。「良心と自由」「キリスト教を徳育の基本とする」「国際感覚」などという言葉は、明治政府の目指す教育理念とは異なる独自のものだったし、新島的にいえば、皆さんは彼の思いへの共感があるからこそ同志社におられるということになります。先ほどの大学のホームページには続けて、「同志社とは、『志を同じくする者が創る結社』です。その原点は、もちろん新島の志です。『ひとつの志』、『同じ志』、すなわち『同志』を意味します。』また「生徒はかけがえのない『同志』でした」とあります。ですから、皆さんも新島の同志のひとりですね。ただし、私も関西学院というキリスト教主義の学校に学び、そこで教えてきた者ということで言えば、この「新島の夢」は基本的には日本のキリスト教学校のすべてに共通し、共有されるものでもあるのです。という意味では「同志社」という学校名に私は強く惹かれるのを感じ、おそらく日本のキリスト教学校、私立学校の本来のあり方を端的に示すことのできる、とても大事な名前だと思っています。

余談ですが、実は私が関西学院大学教育学部のキリスト教という科目で学校の歴史を語る時、同志社のお話も少しすることにしています。というのも、関西学院大学教育学部の前身は聖和大学教育学部ですが、その「聖和」として「Holy Union」は、それ以前に同志社が属する組合教会系の学校（神戸女子神学校、その創立者は神戸女学院創立にも関わった組合教会宣教師で新島の同僚でもあったダッドレーでした）と、関西学院の関係するメソジスト教会（ランバス女学院、その最初の創立者はメソジスト教会宣教師であったメアリー・イザベラ・ランバスでした。その息子ウォルター・ラッセル・ランバスが関西学院を創立します）との合同を意味しています。そこで関西学院大学の中で教育学部だけは聖和を通じて組合教会の伝統につながっており、ある意味同志社とは親戚関係にあるのです。

さて、この同志社の理念、あるいは日本のキリスト教学校にも共有される精神というものは、もちろん日本政府・文部省の、国家主義的な考え方は相容れません。そこで1899（明治32）年に文部省から一つのお達し（「文部省訓令第十二号」）が出されます。その内容は文部省が認定する学校においては一切の（課外活動も含めて）宗教（キリスト教）教育を禁止するというものでした。つまり日本臣民の教育にはキリスト教などいらないという宣言でした。これは当時のキリスト教学校全体にとっても大きなショックで、やがて同志社を含め関西学院や他のキリスト教学校が連携して当時の文部省と交渉を重ねます。こうして日本のプロテスタント系キリスト教学校の連携が生まれ、キリスト教学校教育同盟という組織が生まれます。ちなみに現在その関西地区理事長は同志社総長の八田先生がお務めになられています。その交渉の結果もあり、文部省は徐々に方針を緩和し、日本のキリスト教学校も文部省認定学校の立場を認められていくのですが、この訓令は太平洋戦争が終わるまで効力をもち続けていました。

ウィリアム・メレル・ヴォーリズ

先ほど私は、同志社の理念は関西学院をはじめ多くのキリスト教学校に通じるものでもある、ということをお話ししましたが、もう一つ同志社と関西学院とのつながりを強く感じさせられることがあります。それは同志社のカレッジソング「One Purpose」の作詞者ウィリアム・メレル・ヴォーリズを通じてです。彼は1905年に滋賀県立商業学校（近江八幡）の英語教師として来日します。彼の来日のもう一つの目的はキリスト教の伝道を行いたいというものがあり、英語を教えると同時にバイブルクラス（聖書研究会）を始めます。ところが先ほどの訓令のこともあり、また「近江八幡」という仏教色の強い土地柄から彼のキリスト教活動への反対運動が起こり、結局彼は英語教師を解任されてしまうのです。しかし彼は自分の伝道活動をぜひ続けたいと願い、経済的にそれを支えるための組織として「近江ミッション（近江兄弟社=Omi Brotherhood）」を設立します。皆さんもよくご存知であろうメンソレータムというお菓子の販売や、彼自身その才能に恵まれていた建築設計事業などをそこで展開しました。そのヴォーリズが同志社のカレッジソングを作曲しているのも彼のキリスト教的活動によるつながりを示しています。が、彼が「同志社」を「One Purpose」と訳したことを通じて、皆さんの学校の特徴、独自性が鮮やかに打ち出されることになりました（この歌については元同志社大学神学部教授の本井博先生の論考をぜひお読みになることをお勧めします）。そして彼は同志社の今出川キャンパスにある致遠館（1916年）、啓明館（1920年）、アーモスト館（1932年）、新島遺品庫（1942年）なども設計していますし、最近建て替えた話題になった大丸心斎橋店や関西学院西宮上ヶ原キャンパス、関西学院大学教育学部のある聖和キャンパスのすぐ隣の神戸女学院校舎（重要文化財指定）も彼の作品なのです。さらに、先ほど紹介した本井先生の言葉によると「（ヴォーリズと）同志社との関係は、校歌作詞や校舎設計にとどまりません（中略）『身内』です。立派に新島の『同志』ですよ」とさえ言われるのです。

ところでこのヴォーリズの設計も同志社の設計でもあります。彼と関西学院との強い関わりは、1910年に彼が本格的な建築活動を開始したころから始まりますが、最初関西学院があった兵庫県原田村（現在の神戸市灘区王子動物園）キャンパスから始まり、1929（昭和4）年に学院が現在の西宮市上ヶ原に移転した時には、新しい学院の全体設計を行っています。関西学院の校歌『空の翼』（山田耕伴「関西学院同窓」作曲 北原白秋 作詞）は、その西宮上ヶ原キャンパスのイメージ、甲山を背景とし、中央芝生を前にして時計台が建つ景観が歌いあげられる「ご当地ソング」です。関西学院生や同窓生にとっては忘れられない、いわば関西学院アイデンティティの原点ともいえるでしょう。つまりこのヴォーリズのキャンパスが今の関西学院のスクールカラーを生み出したのです。関西学院前院長として「ヴォーリズはキリスト教主義大学である関西学院のIdentity Realizerであった」というべきなのかもしれませ

ん。こうしてヴォーリスが同志社にも関西学院にも深く関わっていました。実は彼は校舎設計ということでは他のキリスト教主義の多くの学校にも関係しているのですが、それが可能だったのは、彼自身もキリスト教の伝道活動を通じて理想とすることをキリスト教学校に託そうとしたし、広い意味でそれらの学校は核心的なところで理念の共通性があったからではないでしょうか。そしてそれを一つの言葉で表すとすれば“One Purpose”であろうと私は思うのです。

つまりキリスト教に基づく教育、人格教育あるいは人間形成は、私たち一人ひとりが神様に愛され、守られ、選ばれた者としての責任と課題を負っていることに気づくことです。新島が学生諸君をすべて同志と呼ぶのも、ヴォーリスが彼の働きの実践のために作り上げた組織に“Brotherhood”という名前を冠したのも、キリスト教の表現でいうならば私たちがすべて神の前にも生きる仲間として、愛しあい、支えあい、励ましあう関係にあることを強く感じたからでしょう。

One Purpose

今日のお話のタイトルを“One Purpose”とさせていただきますが、それはもちろん同志社の皆さんにとって非常に大切な言葉であるということがまずあるのですが、同時にその言葉は関西学院にとっても、日本のキリスト教学校にとっても、とても大切なメッセージを含む言葉であることを考えさせられたからです。同志社のカレッジソング“One Purpose”の第四節もまた、日本のキリスト教学校の本来のあり方を訴えているようです。

Still broader than our land of birth,
たとえ世界が私たちの生まれた所より広くても

We' ve learned the oneness of our Earth;

私は地球が一つであることを学びました。

Still higher than self-love we find

自己愛よりもっと高いもの

The love and service of mankind.

愛と奉仕を私たちは見つけました。

Dear Alma Mater, sons of thine

愛する母校よ、あなたの子どもたちは、

Would strive to live the life divine;

神から与えられた人生を生きるために努力します

That we may with increasing years have stood

何年もの時を重ねながら私たちは

For God, for Doshisha, and Brotherhood!

神と同志社と兄弟姉妹のために立ち続けるでしょう。

(同志社香里中学校・高等学校「カレッジソング」<https://www.kori.doshisha.ac.jp/sg/song> 2019年10月30日アクセス)

これからも同志社で学ばれる皆さんが、日本のキリスト教学校で学ぶ多くの仲間の模範として、このキャンパスで豊かな学生生活を過ごされますように願っておりますし、皆さんの上に神様の導きと祝福をお祈りしております。

2019年10月31日 同志社スピリット・ウィーク秋学期
京田辺校地 「講演」記録